

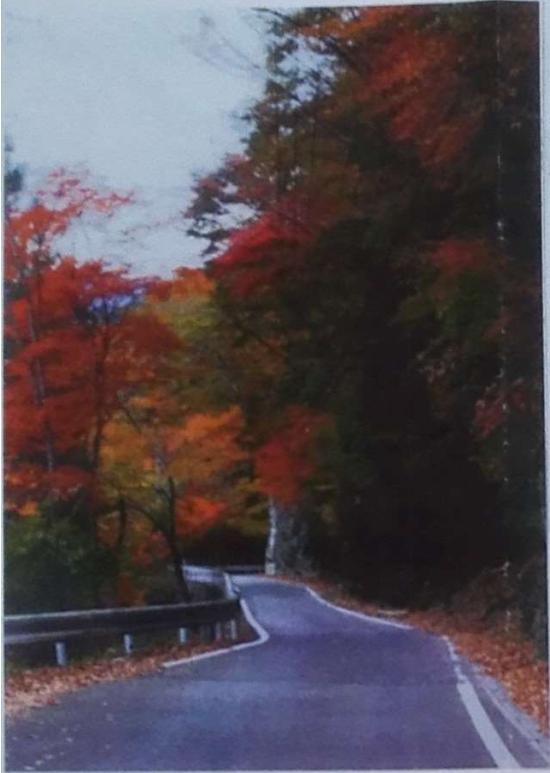
てんてい新聞

'18.11 No257
 発行所 市岡日出夫
 発行者 市岡日出夫
 0883-88-5292

何を誰を信じるの？

十月も半ばにふると、ウズバキトンボが見かけなくなる。そこでアサギマダラが山から下りてフワリフワリ、そして冬の使者の雪虫が飛び、ツヨリビタギの鳴き声がこぼれ始めると、十度を割る温度になる。

季節が冬へと移るという、世の中も、次々とウツが覚醒、大企業、政治家と続く、誰を信じ、何を信じたらいいのぞしようか。
 テムピセラッオでは、今だけ、今日だけの健康食品が、毎日の様にCMで売られている。まるで、サガリを飲めば大丈夫なように。



買ひ付ければ損人ごもした様な気が時にさせられる。

本当に、寒々とした社会になりつつあるのではとおもいます。

女性活躍の社会で、地方創生どころか、聞こえのない言葉ではあるが、その実はどうでしょう。

ただ利用しているだけではいいの、地方創生を言いながら、地方を喰い物にしていく様に、私には見えません。

祖谷というブランドに集ったところだけ、創生という方向なんに見えませんが、いやむしろ年々、地味は、人口が減る一方、その上、高年令が加速する人口状態、増え続けているのは、イベントの開催数。

それ、地味が元気になり、活発になればいいのですが、どうでしょう。

本当に、ますます寒さが身にこめまます。早く、冬眠して行く気分です。

又、世界のニュースでも、ブラジルに極右政権が誕生したり、トランプも...

まるで、アメリカのトランプ大統領に皆さん踊らされるのでもよいぞしようか、信じる何かが失われつつある様にも感じられます。民族や宗教を言いはじめると、ちっともいじめ



祖谷の溪谷も、秋色に変わりつつあり、紅葉も美しいです。十一月、剣山に所、岩中學生志、カンドする機会にめぐまれます。この秋、一番の寒い朝、天候にも恵まれ、登山の山でした。その上、この冬の初め、氷が剣山で見れます。ほんとうにスキーの山でございませぬ。あとも、ありがとう、ごま。

氷霧に 剣山

11月1日

